

4. 第73回東北海区海洋調査技術連絡会事務打合せ

(1) 令和6年度海洋調査計画について

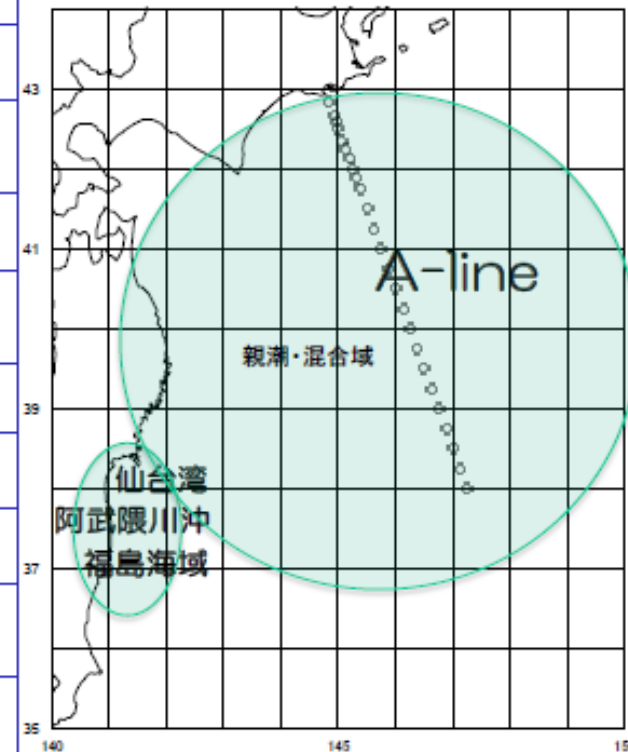
水産資源研究所・仙台管区气象台・第二管区海上保安本部から別紙の通り、調査計画について報告があった。

(2) 令和6年度当番官庁について

順番により第二管区海上保安本部が受け持つことで承認された。

水産研究・教育機構水産資源研究所（塩釜庁舎，釧路庁舎） 2024年度 海洋観測計画

調査期間	調査目的	調査海域	実施船舶
5月中旬	A-lineモニタリング	親潮域、混合域	北光丸
5月中旬	混合域漁場環境調査	親潮域、混合域	若鷹丸
6月下旬～7月上旬	阿武隈川周辺海域放射性物質影響解明調査	阿武隈川周辺海域	若鷹丸
7月中下旬	A-lineモニタリング	親潮域、混合域	若鷹丸
7月8月上旬	宮城県、福島県海域における放射性物質挙動調査	仙台湾～福島海域	若鷹丸
9月上中旬	混合水域漁場環境調査	津軽海峡・親潮・混合域	若鷹丸
10月上旬	A-lineモニタリング	親潮域、混合域	北光丸
11月中旬、下旬	北海道・東北近海、秋季浮魚分布調査	親潮域、混合域	用船
11月下旬～12月上旬	阿武隈川周辺海域放射性物質影響解明調査	仙台湾	若鷹丸
1月下旬	A-lineモニタリング	親潮域、混合域	北光丸
3月上旬	A-lineモニタリング	親潮域、混合域	北光丸



2024年度 海洋観測実施区域

令和6年度海洋調査実施計画



海洋気象観測船 啓風丸



海洋気象観測船 凌風丸

仙台管区气象台
気候変動・海洋情報調整官 福島

海洋観測船による観測

令和6年度観測計画(案)

令和6年度海洋観測船観測計画案

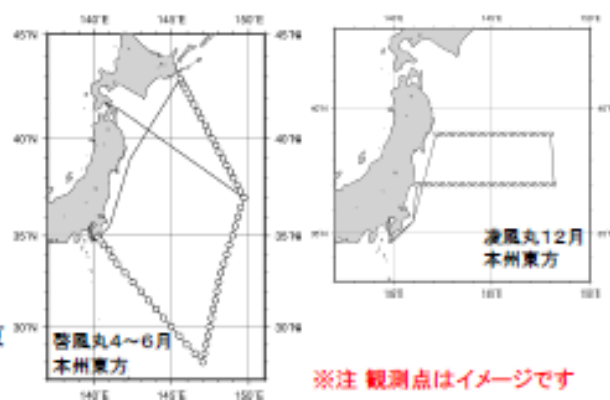
凌風丸24-01次海洋気象観測(令和6年3月)より
新凌風丸へ移行

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
凌風丸	本州東方 【定期、調査】 黒潮		東シナ海 【定期、調査】 GNSS	北西太平洋 【定期、調査】 137E	東シナ海 【定期、調査】 GNSS	北西太平洋 【定期、調査】 24N		本州東方 【調査】 pCO ₂		ドック		北西太平洋 【定期、調査】 137E
警風丸		本州東方 【定期、調査】 KSE, HE, PT	北西太平洋 【定期、調査】 165E	東シナ海 【定期、調査】 GNSS	日本海 【定期、調査】 日本海	東シナ海 【定期、調査】 GNSS		ドック	本州東方 【定期、調査】 P T		北西太平洋 【定期、調査】 165E	

【】内は主な観測の内容 定期：定期海洋観測、調査：調査等のための観測、設置・回収：観測装置の設置・回収等
pCO₂：表面二酸化炭素観測、GNSS：洋上水素観測、OBS：自己洋上式海底地震計等
5月から10月の航海は洋上水素観測に切り替わる場合がある

※現時点(令和5年10月)では案の状態であり、
今後変更される可能性がありますので取り扱いにはご注意ください

観測ラインの名称:
KSE(釧路南東)、
HE(本州東方)、
PT(房総南東/東京
の汚染観測ライン)



観測種目(案)

観測種目

海洋観測

- ・海流流観測
- ・表層水温観測
- ・各層観測(水温、水質(塩分、溶解酸素量、リン酸塩、ケイ酸塩、硝酸塩、重碳酸塩、pH)、プランクトン(クロロフィル a、フェオフィチン))
- ・海洋バックグラウンド汚染観測(水質(二酸化炭素、全炭酸、アルカリ度、メタン、フロン)、海面の油膜、油膜及び浮遊物)

海上気象観測 定時観測・通報及び自動観測・通報

高層気象観測 定時観測・通報

※観測種目は変更となる場合があります。

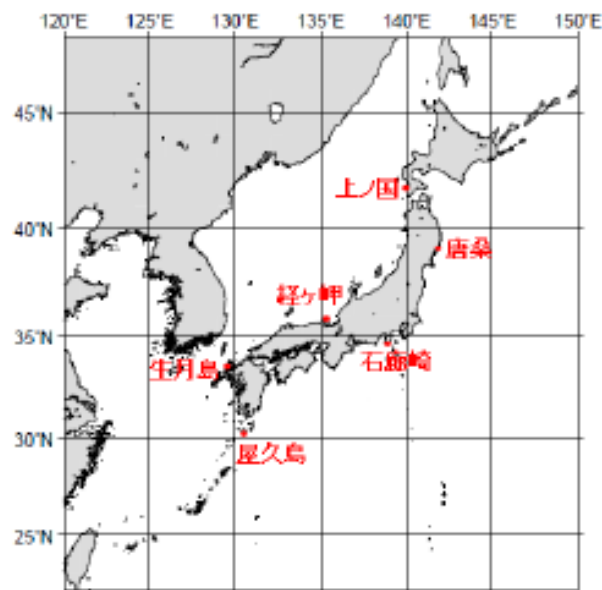
潮汐施設による潮汐観測

全国の潮汐津波観測施設において
 通年観測

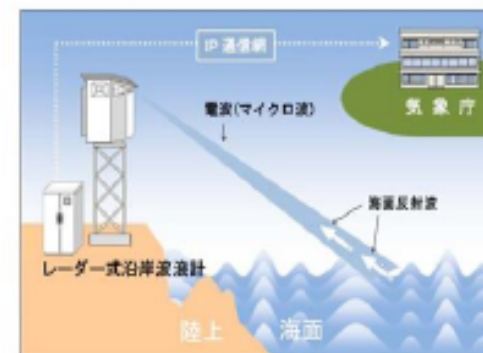


沿岸波浪計による波浪観測

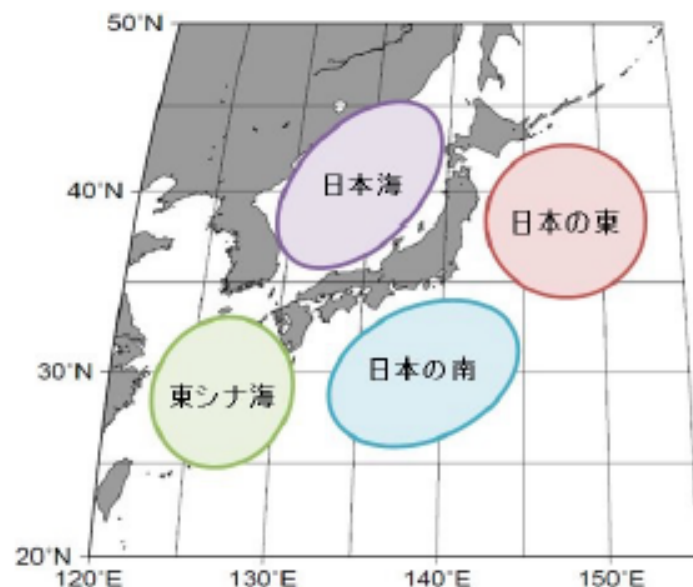
全国6か所に設置した沿岸
 波浪計により、波浪観測
 (波高・周期)を常時実施



レーダー式沿岸波浪計



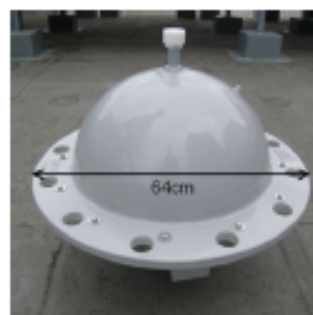
漂流型海洋気象ブイロボットによる観測



漂流ブイ

日本周辺を4つの海域(日本の東、日本の南、東シナ海、日本海)に分け、各々の海域に海洋気象ブイロボットを投入することにより、観測を年間を通じて実施している。

観測項目: 有義波高・周期、気圧、水温



左図: JVCケンウッド社製漂流ブイ

右図: LDL社製漂流ブイ

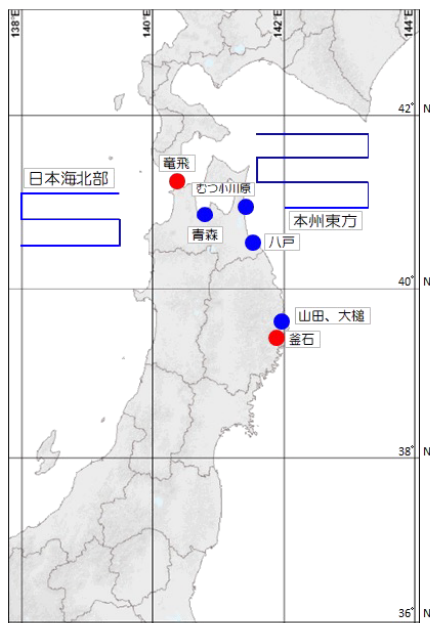
従来使用していた漂流ブイ (JVCケンウッド社製) は生産を終了したことから、より小型化・軽量化した漂流ブイ (LDL社製) を導入し、令和5年2月より観測を実施。

LDL: Lagrangian Drifter Laboratory (スクリップス海洋研究所)

調査内容	調査区域	実施時期 (予定)	使用船舶	備考
海流観測	本州東方 日本海北部	実施未定	測量船	海流：ADCP又はドップラーソナーによる航走観測 水温：XBTによる各層水温観測
潮汐観測 (定常観測)	竜飛（青森県）	6月		験潮器（株式会社ソニック製 DFT-3）による永年観測 定期点検
	釜石（岩手県）	10月		験潮器（株式会社ソニック製 DFT-3）による永年観測 定期点検、基準測量 GNSS測量
潮汐観測 (臨時観測)	山田（岩手県） 大槌（岩手県）	7-8月 9-10月		簡易験潮器による32日以上の潮汐観測、GNSS測量
	むつ小川原（青森県）	8月		むつ小川原検潮所（整備局所管）、GNSS測量
	青森（青森県） 八戸（青森県）	// //		青森検潮所（整備局所管）、GNSS測量 八戸検潮所（整備局所管）、GNSS測量
潮流観測	仙台塩釜港塩釜区	実施未定	測量船又は 用船	ワークホースADCPによる32昼夜以上の潮流観測
海洋汚染調査 放射能調査	仙台湾	5月-12月	測量船	※本庁において実施 海洋汚染調査 採水：10L採水バケツによる定点での試料採取 分析：石油、カドミウム、水銀、COD、DO、水温、 実用塩分、pH 採泥：スミス・マッキンタイヤ型採泥器による定点での試料採取 分析：石油、PCB、有機スズ化合物、カドミウム、水銀、 銅、亜鉛、クロム、鉛、強熱減量、粒度分析 放射能調査 採水：10L採水バケツによる定点での試料採取 分析：ストロンチウム-90、セシウム-134・137 採泥：スミス・マッキンタイヤ型採泥器による定点での試料採取 分析：ストロンチウム-90、セシウム-134・137

付図

一 海流観測 ● 潮汐観測(常設) ● 潮汐観測(臨時)



潮流観測



観測機器設置要領図

